

長楽寺の六尊石仏

ちょうらくじのろくそんせきぶつ



文化財愛護シンボルマーク

名称	六尊石仏	所在地	加古川市平荘町小畑150-1
別称	六地藏、六地藏石棺仏、六尊石棺仏	所有者	長楽寺
数量	1基	指定	加古川市指定文化財
法量	石棺の地上高183cm、幅121cm、厚29cm	指定分類	彫刻
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製	指定名称	六尊石仏
時代	南北朝時代、14世紀	指定年月日	平成20年(2008)3月13日



六尊石仏

平荘町小畑の長楽寺墓地に立ち、古墳時代の凝灰岩(竜山石)製の家形石棺の蓋石の内側に6体の仏像を薄肉彫りした大型の石棺石仏です。

石棺は、上に1個と左右にそれぞれ2個の繩掛突起のある家形石棺の蓋石です。その内側に舟形の輪郭を、上下3段左右2列に6つ彫りくぼめ、それぞれに像高21.5cmから28.0cmまでの阿弥陀如来と地藏菩薩を薄肉彫りしています。



六尊石仏全景 この石棺石仏の前には刳抜き式石棺の身が置かれ、後方には家形石棺の蓋の部材が立てられています。

上段の2体は、半月形の蓮華座に坐す阿弥陀如来坐像、中段の2体は地藏菩薩立像で、向かって右の像は捧珠持錫像で、向かって左の像は胸前に両手を合わせる像です。下段の向かって右の像は、胸前に両手を合わせる地藏菩薩立像と考えられ、向かって左の像は合掌する坐像で尊名は特定できません。

鎌倉時代の石仏と比べると、表現に形式化が進みかけていますが、約500メートル北西の場所に立つ「八ツ仏石仏」とともに、南北朝時代の大型で迫力のある石棺仏として、注目されてきたものです。

石棺材に複数の仏像を彫り出したこのような形式の石仏は、加古川地域の特色を示すものであり、こ

の石仏は、加古川市を代表する石仏として貴重なものです。
(文・写真/宮本)

●参考文献

- 『石棺仏』 宮下忠吉、木耳社(1980年)
- 『加古川の石棺と石棺仏』 大手前女子大学考古学研究室(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』 加古川市(1986年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』 小野市立好古館(2001年)
- 「加古川市平荘町の石造美術」 藤原良夫(『鹿児』 128~135合併号、加古川史学会、1987年)

●キーワード

彫刻、石仏、石棺仏、石棺仏龕、家形石棺の蓋石、長楽寺



六尊石仏背面



●所在地/加古川市平荘町小畑150-1

●交通/J R加古川駅発神姫バス「駒の蹄」行「東小畑」バス停から北へ徒歩6分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ6 km